

定 期 作 況 報 告

令和5年10月
(10月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温はやや高く、最低気温は高く、平均気温はやや高かった。降水量は平年よりやや多く（平年比126%）、日照時間は平年並であった（平年比101%）。

10月上旬：最高気温はやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は多く（平年比143%）、日照時間はやや少なかった（平年比79%）であった。

10月中旬：最高気温は極めて高く、最低気温、平均気温は高かった。降水量は平年並（平年比112%）、日照時間は平年並（平年比110%）であった。

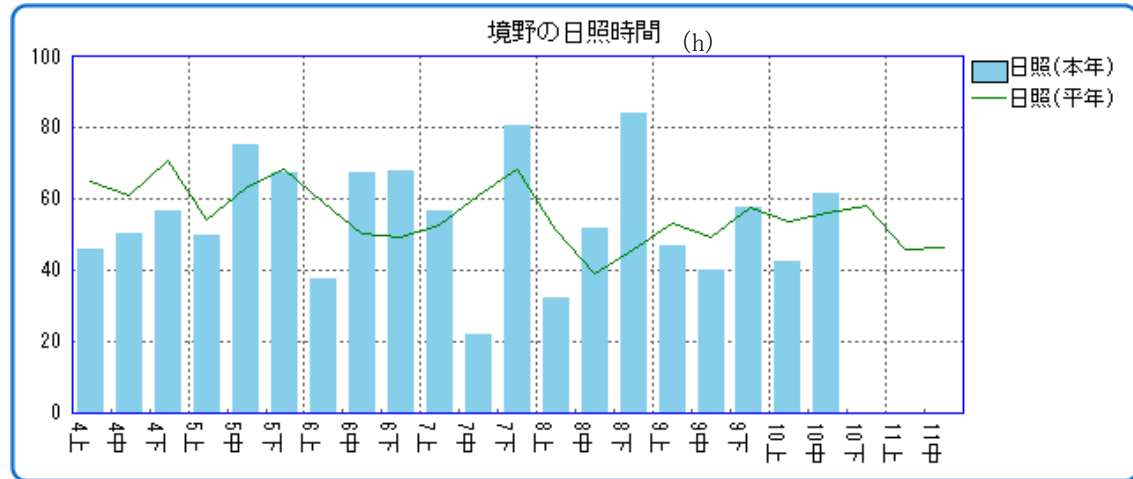
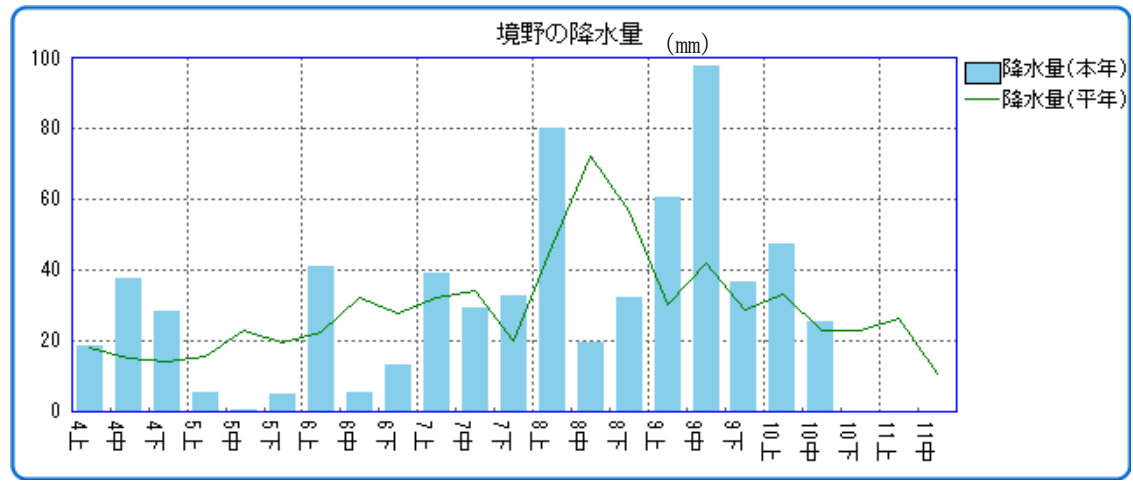
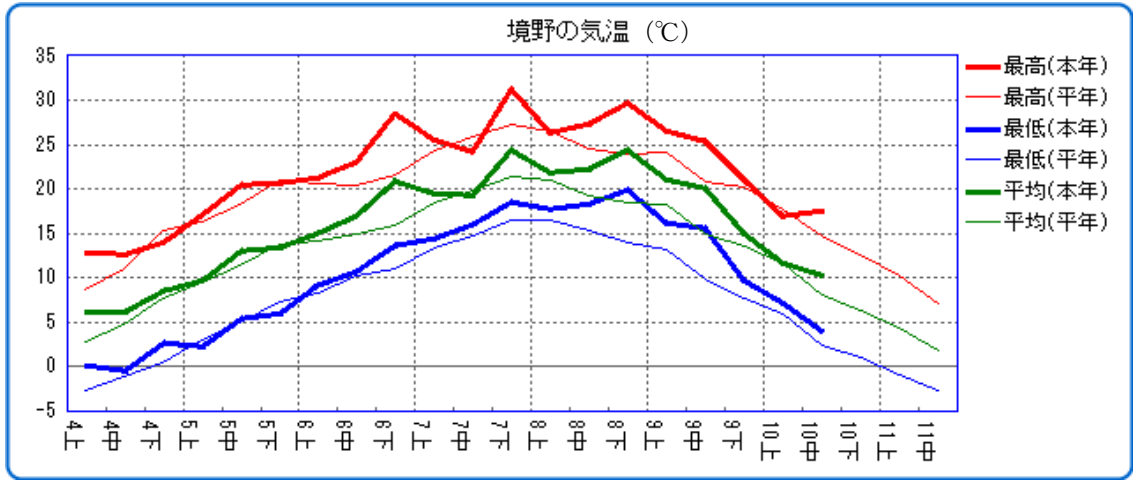
以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温はやや高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	14.9	13.5	1.4	21.0	20.2	0.8	9.6	7.7	1.9
10月 上旬	11.6	11.5	0.1	17.0	17.6	-0.6	7.2	5.9	1.3
10月 中旬	10.2	8.0	2.2	17.5	14.7	2.8	3.9	2.3	1.6
平均値	12.2	11.0	1.2	18.5	17.5	1.0	6.9	5.3	1.6

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	37	28.9	7.6	57.9	57.5	0.4
10月 上旬	48	33.3	14.2	42.7	53.8	-11.1
10月 中旬	26	22.8	2.7	61.8	56.1	5.7
合計値	37	28.3	8.2	54.1	55.8	-1.7

注）観測値は置戸町境野のアメダスによる（てん蔵の定期作況気象情報）。10年平均は前10か年の平均値である。



1) とうもろこし（サイレージ用）

作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	やや不良	播種は平年と同日の5月16日に行った。播種後の気温は平年並であったが、6月3日までまとまった降雨が無かったことから出芽が遅れ、出芽期は平年より6日遅い6月8日であった。6月20日現在の草丈は平年より6.4cm低く、葉数は0.6枚少ない。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
7月20日	平年並	6月下旬以降、平年に比べ高温で推移し、7月20日現在の草丈は平年より16.6cm高く、葉数は0.8枚少なかった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	前月に続き7月下旬以降も高温で推移したことから、平年に比べ開花期は5日、抽糸期は4日それぞれ早かった。8月20日現在の草丈は平年より5.1cm高く、葉数は0.4枚多く、平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日	平年並	気温が平年より高く推移しており、登熟は平年よりやや早く進んでいると推測される。9月20日現在の稈長は246cmと平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
10月20日	平年並	収穫期は平年と同日の9月26日であった。子実の熟度は黄熟中期～黄熟後期と平年よりやや早く進んでいた。平年に比べ乾物茎葉重はやや少なく、乾物雌穂重は多く、総体の乾物率は7.5ポイント高かった。乾物総重は平年比102%、推定TDN収量は104%と平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

生育データ

調査項目		KD320		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.16	5.16	0
出芽期	(月.日)	6.08	6.02	6
開花期	(月.日)	7.29	8.03	△ 5
抽糸期	(月.日)	7.29	8.02	△ 4
収穫期	(月.日)	9.26	9.26	0
収穫時の熟度		黄熟中期～ 黄熟後期	黄熟初期	-
草丈 (cm)	(6月20日)	22.7	29.1	△ 6.4
	(7月20日)	182.8	166.2	16.6
	(8月20日)	281.4	276.3	5.1
稈長 (cm)	(9月20日)	246	249	△ 3
葉数 (枚)	(6月20日)	4.4	5.0	△ 0.6
	(7月20日)	12.0	12.8	△ 0.8
	(8月20日)	15.7	15.3	0.4
生総重 (kg/10a)		5484	6742	△ 1258
乾物茎葉重 (kg/10a)		923	1002	△ 79
乾物雌穂重 (kg/10a)		1128	1008	120
乾物総重 (kg/10a)		2051	2010	41
同上平年比 (%)		102	100	2
推定TDN収量 (kg/10a)		1496	1440	56
同上平年比 (%)		104	100	4
総体の乾物率 (%)		37.5	30.0	7.5
乾雌穂重割合 (%)		55.0	50.1	4.9
有効雌穂割合 (%)		100	100	0.0

注1) 昨年度から調査品種を「KD320」に変更。平年値は前5か年の平均。

注2) 推定TDN収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

注3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

2) 大豆

作 況：良

月日	作況	事由
6月20日	やや良	播種は平年より2日早い5月19日に行い、出芽期も平年より2日早い6月1日であった。6月に入ってまとまった降雨があり、高温に経過したため生育は順調で、主茎長、本葉数はともに平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	平年並	6月の高温傾向により生育は進み、開花始は平年より8日早い7月10日だった。主茎長と本葉数は平年並、分枝数は平年よりやや少なかった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	高温傾向により生育と着莢は順調で、主茎長は平年より長く、主茎節数と分枝数はやや多く、着莢数は多かった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	良	主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも平年を上回り、着莢数は平年を大きく上回った。成熟期は平年並からやや遅い見込みのため、登熟期間は平年より1週間以上長いと推定される。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
10月20日	良	成熟期は平年並の9月22日であった。平年と比較して成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも上回り、着莢数は26%多かった。一莢内粒数は6%少なかったが百粒重は18%重く、子実重は平年比134%と著しく多収だった 以上のことから、目下の作況は「良」である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	5. 19	5. 21	△ 2
出芽期	(月. 日)	6. 01	6. 03	△ 2
開花始	(月. 日)	7. 10	7. 18	△ 8
成熟期	(月. 日)	9. 22	9. 22	0
主茎長 (cm)	(6月20日)	14. 3	10. 3	4. 0
	(7月20日)	49. 1	49. 8	△ 0. 7
	(8月20日)	72. 5	61. 5	11. 0
	(9月20日)	68. 3	61. 7	6. 6
	(成熟期)	69. 3	62. 0	7. 3
本葉 数(枚)	(6月20日)	2. 2	0. 9	1. 3
	(7月20日)	7. 3	7. 4	△ 0. 1
主茎節数	(8月20日)	10. 8	10. 3	0. 5
	(9月20日)	10. 4	10. 0	0. 4
	(成熟期)	10. 6	10. 1	0. 5
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4. 3	4. 6	△ 0. 3
	(8月20日)	5. 8	5. 6	0. 2
	(9月20日)	5. 3	5. 0	0. 3
	(成熟期)	5. 5	5. 1	0. 4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	100. 5	79. 2	21. 3
	(9月20日)	102. 9	73. 4	29. 5
	(成熟期)	91. 1	72. 2	18. 9
一莢内粒数		1. 81	1. 93	△ 0. 12
子実重(kg/10a)		461	345	116
同上平年比(%)		134	100	
百粒重(g)		37. 2	31. 6	5. 6
屑粒率(%)		0. 7	1. 8	△ 1. 1
品質(検査等級)			2上	

注1) 平年値は前7か年中、28年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

3) 小豆

作 況：不良

月日	作況	事由
6月20日	やや良	播種は平年より2日早い5月19日に行い、出芽期も平年より2～3日早い6月7日だった。6月に入ってまとまった降雨があり、高温に経過したため生育は順調で、茎長、本葉数はともに平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	良	6月の高温傾向により生育が進み、開花始は平年より6～7日早い7月18日だった。主茎長、本葉数、分枝数はいずれも平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
8月20日	良	高温傾向により生育は旺盛で、主茎長は平年と比べ著しく長く、主茎節数、分枝数、着莢数はいずれも平年を上回った。ただし、徒長傾向により倒伏が発生している。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
9月20日	良	高温傾向が続いたため莢の登熟が進み、平年より18～19日早い9月9日に成熟期を迎えた。平年と比べて主茎長は著しく長く、主茎節数は多く、分枝数は同等から多く、着莢数は2～3割多かった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
10月20日	不良	着莢数は平年より2～3割多かったが、一莢内粒数は少なく、百粒重は軽く、子実重は平年比71～74%と著しく低収であった。くず粒率はやや高かった。収量低下の要因としては、登熟期間の高温による小粒化、倒伏による影響、本年多発しているマメノメイガによる食害が推察された。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。

生育データ

調査項目		エリモシヨウズ			きたろまん		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月. 日)		5. 19	5. 21	△ 2	5. 19	5. 21	△ 2
出芽期 (月. 日)		6. 07	6. 09	△ 2	6. 07	6. 10	△ 3
開花始 (月. 日)		7. 18	7. 25	△ 7	7. 18	7. 24	△ 6
成熟期 (月. 日)		9. 09	9. 28	△ 19	9. 09	9. 27	△ 18
主茎長 (cm)	(6月20日)	4. 4	3. 4	1. 0	4. 3	3. 3	1. 0
	(7月20日)	28. 2	18. 6	9. 6	29. 4	17. 6	11. 8
	(8月20日)	92. 1	63. 1	29. 0	103. 7	63. 7	40. 0
	(9月20日)		68. 6			72. 6	
	(成熟期)	87. 3	67. 4	19. 9	99. 9	68. 9	31. 0
本葉数 (枚)	(6月20日)	1. 1	0. 3	0. 8	1. 2	0. 3	0. 9
	(7月20日)	9. 4	6. 7	2. 7	9. 2	6. 4	2. 8
主茎節数	(8月20日)	16. 4	14. 2	2. 2	16. 7	13. 4	3. 3
	(9月20日)		14. 3			13. 7	
	(成熟期)	16. 1	14. 0	2. 1	15. 6	13. 5	2. 1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4. 3	2. 3	2. 0	2. 8	2. 0	0. 8
	(8月20日)	5. 7	4. 3	1. 4	3. 4	3. 3	0. 1
	(9月20日)		3. 7			2. 9	
	(成熟期)	5. 3	4. 3	1. 0	3. 2	3. 4	△ 0. 2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	64. 3	38. 7	25. 6	66. 4	36. 4	30. 0
	(9月20日)		51. 2			49. 7	
	(成熟期)	65. 4	53. 2	12. 2	67. 0	51. 0	16. 0
一莢内粒数		6. 17	6. 27	△ 0. 10	5. 80	6. 38	△ 0. 58
子実重(kg/10a)		277	372	△ 95	261	368	△ 107
同上平年比 (%)		74	100		71	100	
百粒重 (g)		13. 2	15. 1	△ 1. 9	14	16. 8	△ 2. 8
屑粒率 (%)		10. 3	9. 1	1. 2	9. 0	8. 4	0. 6
品質 (検査等級)			4上			4上	

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

4) 菜豆

作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	やや良	播種は平年より1日早い5月19日に行った。播種前から少雨傾向だったため出芽にやや時間を要し、出芽期は平年より2日遅い6月3日だった。6月3日にまとまった量の降雨があり、出芽後は高温に経過したため生育は順調で、草丈、葉数はともに平年を上回る。 以上により、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	平年並	6月の高温傾向により生育は進み、開花始は平年より9日早い6月30日だった。平年と比較して、草丈は長く、本葉数は少なく、分枝数は同等だった。 以上により、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	7月下旬と8月中旬の著しい高温により莢の登熟が急激に進み、平年より2週間早い8月19日に成熟期を迎えた。草丈は平年より長く、主茎節数はやや少ないが分枝数はやや多く、着莢数は平年並だった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日	平年並	平年と比較して草丈は長く、主茎節数は少なく、分枝数はやや多かった。着莢数と一莢内粒数は平年並で、子実重も平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
10月20日	平年並	夏季の高温により登熟期間が短かったため百粒重は平年の9割程度と小粒傾向であったが、子実重は9月20日付報告のとおり平年並であった。成熟期前後である8月中下旬の少雨傾向により、くず粒率は平年より低かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

生育データ

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.19	5.20	△ 1
出芽期	(月.日)	6.03	6.01	2
開花始	(月.日)	6.30	7.09	△ 9
成熟期	(月.日)	8.19	9.02	△ 14
草丈 (cm)	(6月20日)	13.2	10.7	2.5
	(7月20日)	44.5	38.1	6.4
	(8月20日)	46.4	41.4	5.0
	(成熟期)	46.4	41.0	5.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	2.1	0.8	1.3
	(7月20日)	3.0	4.0	△ 1.0
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.6	△ 0.6
	(成熟期)	5.0	5.6	△ 0.6
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.6	5.4	0.2
	(8月20日)	5.4	5.1	0.3
	(成熟期)	5.4	5.2	0.2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	20.0	20.0	0.0
	(成熟期)	20.0	19.8	0.2
一莢内粒数		2.92	2.86	0.06
子実重(kg/10a)		303	303	100
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)		58.4	65.4	△ 7.0
屑粒率 (%)		2.6	25.8	
品質 (検査等級)			4上	

注1) 平年値は前7か年中、令和4年(最豊)、令和3年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 馬鈴しょ 作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	やや良	植え付けは平年並の5月11日に行った。植え付け後の5月中旬の平均気温がやや高く、「男爵薯」、「コナユタカ」いずれも萌芽期は平年より3日早かった。萌芽期が早かったため、両品種とも茎長は平年を上回っており、茎数は平年並である。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	平年並	萌芽後、気温が平年より高く推移したことから、開花始は「男爵薯」で3日、「コナユタカ」で6日平年より早かった。しかしながら、6月中下旬の降水量が少なく、加えて6月下旬の気温が極めて高かったため、生育は停滞した。茎長は両品種で平年を下回っており、茎数は「男爵薯」ではやや多く、「コナユタカ」では平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや良	萌芽から生育初期にかけて気温が高く推移し生育が早く進んだこと、降水量は平年並であったことから、塊茎の肥大は良好で上いも重は平年よりもかなり重く、「男爵薯」が平年比112%、「コナユタカ」が平年比118%であった。しかしながら、「男爵薯」で中心空洞が発生しており、高温の影響により、でん粉価が両品種とも平年をやや下回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	やや良	「男爵薯」の枯ちよう期は平年よりも4日遅かった。前月に引き続き、上いも重は平年比127%で平年を大きく上回ったが、中心空洞と褐色心腐が発生していた。「コナユタカ」は黄変が始まっており、上いも重は平年比119%、でん粉重は平年比111%であった。一方、8月下旬から9月中旬の気温が極めて高かったことから両品種のでん粉価は平年を下回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
10月20日	平年並	「コナユタカ」の枯ちよう期は平年よりも4日早い10月10日であった。「コナユタカ」の上いも数、上いも平均重は平年並、上いも重は平年比107%であった。しかし、高温の影響により、でん粉価は平年より低く、でん粉重は平年比100%であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

生育データ

調査項目		男爵薯			コナユタカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月. 日)	5. 11	5. 11	0	5. 11	5. 11	0
萌芽期	(月. 日)	5. 26	5. 29	△ 3	5. 29	6. 01	△ 3
開花始	(月. 日)	6. 25	6. 28	△ 3	6. 28	7. 04	△ 6
枯ちよう期	(月. 日)	9. 04	8. 31	4	10. 10	10. 14	△ 4
茎長 (cm)	(6月20日)	32. 1	23. 3	8. 8	20. 2	12. 6	7. 6
	(7月20日)	48	56	△ 8	78	81	△ 3
	(8月20日)	48	57	△ 9	101	103	△ 2
茎数(本/株)	(6月20日)	4. 0	3. 8	0. 2	2. 3	2. 5	△ 0. 2
	(7月20日)	5. 1	4. 3	0. 8	2. 5	2. 7	△ 0. 2
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	5637	5028	609	4569	3850	719
	(9月20日)	6223	4899	1324	6573	5526	1047
でん粉価 (%)	(8月20日)	14. 1	15. 6	△ 1. 5	18. 4	18. 9	△ 0. 5
	(9月20日)	13. 5	15. 2	△ 1. 7	19. 4	20. 6	△ 1. 2
でん粉重 (kg/10a)	(9月20日)	－	－	－	1209	1085	124
上いも数(個/株)		13	10. 3	2. 7	8. 8	8. 2	0. 6
上いも平均重 (g)		107	109	△ 2	175	181	△ 6
上いも重 (kg/10a)		6223	4899	1324	6856	6428	428
同上平年比 (%)		127	100	27	107	100	7
でん粉価 (%)		13. 5	15. 2	△ 1. 7	20. 1	21. 4	△ 1. 3
でん粉重 (kg/10a)		－	－	－	1311	1310	1
同上平年比 (%)		－	－	－	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）、令和3年（最豊）を除く5か年の平均

7) てんさい

作 況：不良

月日	作況	事由
5月20日	平年並	移植栽培の播種は、平年より2日早い3月22日に行った。以降、気温が高めに経過したため、育苗期間中の生育は非常に良好であった。移植は平年より2日早い5月2日に行った。土壌条件は適湿であったため、活着は良好であった。5月9日に降霜があったが、枯死する個体はほとんどなかった。その後の気象条件はおしなべて平年に近く、草丈、生葉数、茎葉重ともに平年並である。 直播栽培の播種は、平年より3日早い5月2日に行った。出芽期は平年より2日早い5月14日で、出芽揃いも良好である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
6月20日	やや不良	この1ヶ月は、6月上旬にまとまった降雨があったものの、降水がほとんどない期間が長く、圃場は乾燥傾向であった。そのため、移植栽培では、草丈、茎葉重および根重が平年を下回っている。一方、直播栽培では、乾燥の影響が少なく、各項目とも平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
7月20日	平年並	7月上旬からの降雨のため、圃場の乾燥傾向は解消した。また気温が高く推移したため、生育は回復傾向となった。移植栽培では、草丈および生葉数が平年を上回っているものの、根重および根周は、6月中下旬の乾燥の影響が残ったため、平年をやや下回っている。一方、直播栽培では、各項目とも平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや不良	この1か月間は、日中の気温が著しく高く、最高気温が30度を超えた日が多かったため、移植、直播栽培ともに、茎葉重および根重が平年を下回った。一方、草丈および生葉数は、平年をやや上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
9月20日	やや不良	この1か月間は、降水量が多かったため、茎葉重、根重は回復が認められ、草丈、生葉数、茎葉重、根重および根周は、いずれも概ね平年並であった。一方、高温傾向が続いているため、根中糖分は平年を下回った。8月下旬より、高温多雨のために、褐斑病の発生が目立ってきており、今後、根中糖分に与える影響が懸念される。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
10月20日	不良	収穫は、平年より3日遅い10月23日に行った。 9月中旬まで高温多雨傾向であったことから、褐斑病は、最終的に平年より多い中程度の発生となった。根中糖分は、8月～9月の高温と褐斑病の影響のため、平年を下回った。根重は、降水量が十分であったため、ほぼ平年並であったが、糖量は平年を下回った。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。

生育データ

調査項目		移植						直播		
		アンジー			アマホマレ			アンジー		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月. 日)	3. 22	3. 24	△ 2	3. 22	3. 24	△ 2	5. 02	5. 05	△ 3
移植期	(月. 日)	5. 01	5. 03	△ 2	5. 01	5. 03	△ 2	-	-	-
出芽期	(月. 日)	-	-	-	-	-	-	5. 14	5. 16	△ 2
収穫期	(月. 日)	10. 23	10. 20	3	10. 23	10. 20	3	10. 23	10. 20	3
草丈 (cm)	(5月20日)	6. 5	6. 8	△ 0. 3	7. 0	7. 2	△ 0. 2	-	-	-
	(6月20日)	19. 2	22. 9	△ 3. 7	20. 3	23. 9	△ 3. 6	16. 7	13. 8	2. 9
	(7月20日)	55. 2	53. 7	1. 5	59. 8	54. 7	5. 1	55. 7	51. 7	4. 0
	(8月20日)	62. 4	58. 9	3. 5	63. 0	61. 3	1. 7	63. 9	60. 2	3. 7
	(9月20日)	64. 0	60. 4	3. 6	64. 3	63. 7	0. 6	69. 0	62. 3	6. 7
生葉数 (枚)	(5月20日)	5. 7	6. 6	△ 0. 9	4. 8	5. 2	△ 0. 4	-	-	-
	(6月20日)	13. 2	12. 4	0. 8	11. 7	11. 4	0. 3	10. 4	8. 7	1. 7
	(7月20日)	23. 5	21. 6	1. 9	24. 1	21. 0	3. 1	22. 1	19. 2	2. 9
	(8月20日)	27. 6	27. 4	0. 2	26. 3	25. 5	0. 8	27. 9	26. 0	1. 9
	(9月20日)	27. 6	29. 7	△ 2. 1	29. 3	27. 8	1. 5	30. 3	28. 0	2. 3
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	1. 0	1. 2	△ 0. 2	1. 1	1. 2	△ 0. 1	-	-	-
	(6月20日)	34	76	△ 43	37	67	△ 30	21	14	7
	(7月20日)	459	497	△ 38	564	520	44	423	404	19
	(8月20日)	684	764	△ 80	728	786	△ 58	695	719	△ 24
	(9月20日)	543	740	△ 197	827	740	87	727	713	14
根重 (g/個体)	(6月20日)	9	15	△ 6	13	17	△ 4	3	1	2
	(7月20日)	250	264	△ 14	248	256	△ 8	184	137	47
	(8月20日)	607	726	△ 119	581	724	△ 143	564	583	△ 19
	(9月20日)	953	1037	△ 84	1008	1004	4	955	843	112
根周 (cm)	(7月20日)	22. 2	23. 2	△ 1. 0	21. 2	22. 7	△ 1. 5	20. 5	18. 6	1. 9
	(8月20日)	30. 1	33. 7	△ 3. 6	29. 4	32. 2	△ 2. 8	30. 2	30. 8	△ 0. 6
	(9月20日)	36. 8	38. 0	△ 1. 2	36. 7	37. 0	△ 0. 3	37. 0	35. 0	2. 0
根中糖分 (%)	(9月20日)	14. 68	16. 34	△ 1. 66	14. 64	16. 79	△ 2. 15	14. 34	16. 64	△ 2. 30
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)	3510	5108	△ 1598	4140	5873	△ 1733	3300	5091	△ 1791
根 重(kg/10a)	(収穫期)	7517	7595	△ 78	6879	7024	△ 145	6987	6503	484
同上平年比 (%)		99	100	△ 1	98	100	△ 2	107	100	7
根中糖分 (%)	(収穫期)	15. 67	18. 14	△ 2. 47	16. 44	18. 74	△ 2. 30	15. 94	18. 34	△ 2. 40
同上平年比 (%)		86	100	△ 14	88	100	△ 12	87	100	△ 13
糖量(kg/10a)	(収穫期)	1178	1377	△ 199	1130	1316	△ 186	1113	1192	△ 79
同上平年比 (%)		86	100	△ 14	86	100	△ 14	93	100	△ 7

注1) 平年値は前7か年中、令和3年（最豊）平成28年（最凶）を除く5か年の平均。

7) 牧草（チモシー）

作 況：不良

月日	作況	事由
5月20日	平年並	萌芽期は平年より1日早い4月18日で、冬損は認められなかった。萌芽後の気温は平年並からやや高く経過し、降水量は4月中下旬が極めて多く、5月上中旬が極めて少なかった。5月20日現在の草丈は平年並の41cmであり、被度は100%であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
6月20日	不良	5月下旬以降の気温が平年並からやや高く推移したことから、1番草の出穂始および出穂期はそれぞれ平年より1日早い6月9日および6月13日であり、刈取時の出穂程度は平年より高かった。一方で、5月下旬および6月中旬の降水量が少なかったことから草丈は平年より14cm低く、乾物収量も平年比77%と低収であった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
7月20日	不良	1番草収穫後の6月下旬の気温が平年より極めて高く、降水量が少なかったことから2番草の再生が緩慢であり、2番草再生時の草丈は平年より6cm低い33cmであった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
8月20日	不良	2番草の収穫は平年より2日遅い8月7日に行った。7月下旬以降は高温で経過したものの、8月上旬にかけて降水量が多かったことから2番草の乾物収量は平年比116%と多収であった。しかし、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比88%に止まっている。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
9月20日	不良	2番草刈取り（8月7日）以降高温で経過し、8月中旬は平年に比べ降水量が少なかったため、3番草の再生が緩慢であったと考えられる。3番草再生時の草丈は平年より4cm低い31cmであった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
10月20日	不良	3番草の収穫は平年より2日遅い10月4日に行った。9月上旬以降の降水量は平年より多く、3番草収穫時の草丈は平年並の38cmであったものの、乾物収量は平年より16%少ない107kg/10aであった。また、1～3番草の合計乾物収量は平年比87%と低収であった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。

生育データ

品種名 調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4. 18	4. 19	△ 1
冬損程度		1. 0	1. 0	0. 0
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始 (月. 日)		6. 09	6. 10	△ 1
出穂期 (月. 日)		6. 13	6. 14	△ 1
出穂程度	1番草	7. 5	6. 8	0. 7
節間伸長程度	2番草	4. 5	4. 7	△ 0. 2
収穫日	1番草	6. 15	6. 16	△ 1
	2番草	8. 07	8. 05	2
	3番草	10. 04	10. 02	2
倒伏程度	1番草	1. 0	1. 0	0
病害罹病程度	1番草	1. 0	1. 0	0
	2番草	2. 0	2. 6	△ 0. 6
	3番草	2. 8	2. 7	0. 1
草丈(cm)	(5月20日)	41	41	0
	(6月5日)	66	76	△ 10
	1番草	83	97	△ 14
	2番草再生時	33	39	△ 6
	2番草	76	66	10
	3番草再生時	31	35	△ 4
	3番草	38	39	△ 1
生草収量 (kg/10a)	1番草	1, 651	2, 544	△ 893
	2番草	1, 316	837	479
	1+2番草計	2, 967	3, 381	△ 414
	3番草	349	509	△ 160
	合 計	3, 316	3, 890	△ 574
乾物率 (%)	1番草	25. 6	22. 3	3. 3
	2番草	18. 4	26. 3	△ 7. 9
	3番草	30. 6	26. 3	4. 3
乾物収量 (kg/10a)	1番草	423	549	△ 126
	同上平年比(%)	77	100	△ 23
	2番草	242	208	34
	同上平年比(%)	116	100	16
	1+2番草計	664	757	△ 93
	同上平年比(%)	88	100	△ 12
	3番草	107	124	△ 17
	同上平年比(%)	86	100	△ 14
	合 計	771	882	△ 111
	同上平年比(%)	87	100	△ 13

注1) 平年値は前7か年のうち令和4年（最豊）、令和3年（最凶）を除いた前5か年の平均値。

注2) 冬損程度は1:無または微～9:甚。出穂程度および節間伸長程度は1:無～9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。